

上田西 選抜甲子園へ

初戦は3月22日(月)に広島新庄と



1月29日(金)に第93回選抜高等学校野球大会(以下選抜)の出場校選考委員会が開かれ、第143回北信越地区高等学校野球大会準優勝の実績などが評価された本校硬式野球部が北信越地区の代表に選出された。夏の選手権大会には2013年、2015年に出場しているが選抜への出場は創部以来初めて。リモートで行われた組み合わせ抽選会の結果、上田西高校の初戦は3月22日(月)の第3試合14時20分から。対戦相手は中国地区代表の広島新庄高校に決まった。

千西一週

号外

特別号外
発行 2021年 3月3日(水)
上田西高校 校会
新聞委員 編集局
編集局長:堀内日菜子
新聞委員長:橋爪ここ菜
林 優衣
金井 楓
辺見 咲良
藤田 珠寿
宮島 純夏
奈良本 梓

冬練乗り越え真価問われる春へ

選抜出場決定から約1か月。組み合わせも決まりチームも本番に向け攻守に渡って実戦形式の練習を行う。柳澤樹主将(2年11丸子)は選抜に向けて「投手や守りのミス、メンタルが課題」と話した。

練習試合解禁まで残り僅かとなり冬練の成果が試される。2番手以降の投手確立のため、「個人的にはメンタル面も課題」と話す140km右腕堀内琢斗(2年11青木)は冬練でフォームのトレーニングや下半身の強化を行ったという。左腕高梨匠(1年11東京・浮間)も、「安定感を出し、粘り強く投げられるようになることが課題」と話し、下半身のトレーニングやシャドーピッチングでフォーム固

めを行っている。ひと冬超えた投手陣の奮起に期待がかかる。投手陣を引っ張る捕手の小川隼弥(1年11春富)はリードの考察や周りへの声掛けなどに定評がある。北信越大会準決勝星稜戦では勝ち越し打を放つも、「打撃面が課題」と話す。投手を引っ張る配球や送球とともに打撃力が向上すればチームの総合力にさらに厚みが出てきた。

強力打線も強化が進む。吉崎琢朗監督がこの冬で「打撃がスケールアップし、打球が強くなった」と評価する花岡瑠伊(1年11望月)は速い球に対応しパワーをつけてスイングするための「重いバットでの打ち込みや、スイングスピードをあげる練習をしてい

る」と話した。選抜では140km以上の速球を投げ込む投手が多く立ち回りは強いため、上田西の強みである強力打線がどこまで通用するか試される。(堀内日菜子・橋爪ここ菜・辺見咲良・藤田珠寿)

↑選抜高等学校野球大会出場決定の吉報を聞き、喜びを爆発させるマスク姿の野球部員 写真撮影=橋爪ここ菜

大会展望

新庄の2枚看板 打ち崩せるか

今年度の組み合わせ抽選会は新型コロナウイルスの感染対策のため史上初のオンラインで開催された。15番目にくじを引いた上田西の主将柳澤は上田西の「ウ」を選択。すると番号「24(ニシ)」を引き当て、1回戦の相手は中国地区王者の広島新庄高校に決定した。広島新庄は左

右の2枚看板投手を軸に接戦を守り勝つ野球が持ち味。出場校の中でチーム防御率7位、平均失点5位と守りが堅く、新チームになってからは39連勝中。上田西は、1番笹原操希(2年11裾花)を中心にチームの強

みである強打と機動力を活かし、先制点をあげ主導権を握りたい。守りでは、ミスを出不さないこととエースの山口謙作(2年11神奈川・泉)が試合を作れるかどうか勝負のポイントとなるだろう。広島新庄の大可主将は「星稜に勝っているのでも粘り強いと思う」と上田西の印象をあげ、「新庄らしく足を絡め、僅差で勝ってほしい」と話した。上田西の主将柳澤は「(広島新庄は)自分たちよりも格上な相手」と話し、「チャレンジャーとして思い切って野球をした」と初の選抜への意気込みを語った。(宮島純夏・奈良本梓)

UNity 仲間 挑戦 無限大

第93回選抜高等学校野球選手権大会 1回戦

上田西高等学校 VS 広島新庄(中国地区代表)

2021年3月22日(月) 14:20 ~ 阪神甲子園球場

制作: 上田西高等学校生徒会広報(清水舞子) 協力: 上田西高等学校新聞委員会

初の選抜甲子園出場をPRするために生徒会によって制作されたポスター 制作=上田西高等学校生徒会広報(清水舞子)

